

戦車壕あと ポージウシューのカー 共通教育棟前拝所

ハイサイ&ハイタイみなさーん、寒くなりましたね～。風邪にご用心！では今月も始めます。



(戦車壕あと)

戦車壕あと

50周年記念会館（以下「会館」と省略）横の放牧地一帯（農学部附属農場の一部）は、かつて車道が通り、集落がありました。痕跡は現在も確認できます。また、戦時中は旧日本陸軍が弾薬庫や壕を設営していました。会館から環境安全センターまでの中間地点に柵で囲われた戦車壕あとがあります。壕周辺ではかつて牛を放牧していたのですが、ある日牛が壕に落ち、戦車壕あとがあるとわかりました（農学部：平川守彦准教授談）。



ポージウシューヌカー（坊主御主の井戸）の話

この井戸は、本学農学部の北側駐車場近くにあります。ポージウシュー（坊主御主）とは第二尚氏・第17代国王の尚瀨（しょうこう）王（1804-1834年在位）のこと。晩年病を得、千原の棚原山で隠居生活をおくりました。その時使われた井戸が「ポージウシューヌカー」と呼ばれています。井戸は、本学移転工事の際破壊の予定でしたが、首里のノロから残すように言われ、井戸の周りをコンクリートで四方囲いにして盛土を施してあります*。



(建物手前の盛土が「ポージウシューヌカー」です)

共通教育棟前拝所



(拝所正面)



(拝所斜めより。奥は教育センター)

共通教育棟前には霊石（「賓頭慮（びんずる）」）を祀る来歴不明の小さな祠（ほこら）があります。ご存じのかた、きじむんまでぜひ情報をお寄せ下さい。（NK生）

※参考資料：仲間勇栄・仲地宗俊・菊池香「琉球大学千原キャンパスにおける森と人々の暮らしに関するフィールド調査」『琉球大学農学部学術報告』第49号 P60（琉球大学農学部：2002）/取材協力：琉球大学農学部 亜熱帯地域農学科